

山岳部通信 No.22

山岳部の紹介と活動状況をお知らせしていきます。

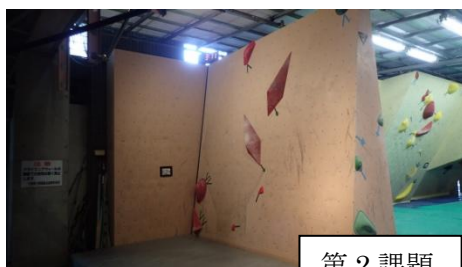
今回の山岳部通信は先日行われましたボルダリング大会についてです。

令和3年度のボルダリング大会は、11月21日(日)に千葉県立幕張総合高等学校ボルダリングウォールを会場に行われました。

ボルダリング競技は東京オリンピックで目にされた方も多いかと思いますが、海匝地区にも民間のジムができていますし、老若男女ともに手軽に始められるスポーツです。

クライミング競技には【リード】【ボルダリング】【スピード】となりますが、【スピード】を除いた2つが高校生の競技となります。《各競技概要は山岳部通信 No04 をご覧ください。》

今年についてもコロナの影響により3密を避けるために、各選手の受付時間、アップ、競技時間に至るまですべて分単位で指定し大会を行いました。今回はウォールを4つのエリアに分けて課題が設定されました。いかにアテンプト数(挑戦回数)を少なくして完登(攻略)することが出来たかで順位が決まります。



各課題で使用できるホールド(人口の突起物)はテープで印がつけられ、それ以外のホールドは使用できません。ただし、壁そのものはその限りではありませんが・・・。



男子は緑テープで示されています。スタートから手足限定、いかにゴールにたどり着くか!!

ルートを読む思考力と柔軟性、そして思いっきりの良さ。パワーをいかに上手に利用するかが勝負になります。

《成績の付け方は山岳部通信 No06 をご覧ください。》

競技時間は4分。初めて課題を見て、攻略の手順を考えるのです。

まさに知力と体力、柔軟性など総合力の競技です!!

東総の結果は惨敗でした。普段の壁との違いや、大柄なホールドの活用方法、第1課題の忍者?スパイダーマン?のようなムーブなど、それぞれ特徴的な課題に悪戦苦闘でした。

次回のクライミング競技は新人クライミング大会になります。練習量やいろいろなムーブの経験を積んで次回に臨みたいと思います。

